

The background is a dark blue gradient with a subtle pattern of white dots, resembling a starry sky. On the left side, there are several concentric circles and a scale. The scale is a semi-circular arc with tick marks and numbers ranging from 140 to 260. Some of the numbers visible are 140, 150, 160, 170, 180, 190, 200, 210, 220, 230, 240, 250, and 260. There are also some dashed lines and arrows pointing in different directions, creating a sense of motion or rotation.

情報リテラシー C

増永 翔

COINHIVE事件の概要

coinhiveとは、サイトを閲覧した人に仮想通貨のマイニング(仮想通貨の取引記録を担うことで、報酬として新しく発行された仮想通貨を受け取る)を行わせ、マイニングの利益の7割をサイト運営者が受け取るというプログラムのこと

2019年2月、警察はこのcoinhiveを自身のサイトに設置した男性を不正指令電磁氣的記録取得・保管の罪にあたるとして摘発した。

双方の食い違い

- 摘発側の意見: 閲覧者の画面に表示されず拒否する機会もない、意図に反する動作をさせるプログラムだとして不正指令電磁的記録保管罪にあたる。マイニングに使われるコンピュータの能力は無視できるような程度ではない。
- Coinhive設置側の意見: coinhiveが違法なら、インターネット広告トラッキングなどのユーザーにとって見えない機能も全て違法となる。日本のネットの収入源が覆る可能性がある。マイニングが新たなネットの収入源になる。

教訓

- 未知の科学技術を新たなビジネスとして使うことの難しさが露呈した例だと思う。
- 特に、プライバシーとデータ回収や仮想通貨の関係はかなりシビアで、その分野の技術開発をする際はプライバシーについてしっかりと考える必要がある。
- 一方、あまりに制限しすぎると技術開発を滞らせることになるということもわかる。

未知の技術は現在の常識に対してどうなのか、それは認められるものなのか、を考える必要がある